アンバサダーライダー・髙田茉莉亜と佐々紫苑の

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2021 年 11 月号掲載

馬心伝心 ―奮闘記partⅡ―

佐々紫苑
Shion Sassa

日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑
（さっさ・しおん）
1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

私は時間があると、幼稚園の子どもたちを乗せてポニーの引き馬をしています。最初はみんな自分より身体の大きな馬に近づくだけで怖がってしまいますが、馬の顔をなでたりニンジンをあげたりして少しずつ距離を縮めていきます。馬の後ろは通らないこと、馬がびっくりしないよう大声で叫んだりしないこと、乗り終わったらありがとうと首筋をポンポンと叩いてあげることを約束していよいよ引き馬の始まりです。

背中をピンとして、前を向いてと声を掛けながら歩き始めると、身体全体に力が入って緊張感が伝わります。初めての体験で怖い思いをするといけないので、私も緊張するのですが、緊張しすぎて顔がこわばり、しがみつくように乗る子もいます。しかしポニーもそのあたりは心得ていて、ゆっくり歩きながら記念写真のポイントに来ると、「はい、ここでポーズをとって」と言わんばかりに、自分から止まってくれます。

緊張をほぐしてリラックスできるように私から話しかけるのですが、今時の幼稚園女子、あなどれません。私が「お馬さんに乗って、お姫さまみたいだね」と言うと、「王子さまが白い馬に乗って迎えにきてくれるんだよ」と…。さらには、「お姉さんには王子さまいないの？　お姉さん何歳？　どうしてお馬さんに乗ってるの？」と怒濤（どとう）の質問攻めの始まりです。話が弾んでくると体の力も抜けて、馬の反撞（はんどう）に合わせて体も柔らかく揺れ、上手に乗れるようになります。乗馬指導同様、楽しい会話術も勉強しながら、未来の金メダリストを発掘していければいいですね。私自身が馬術を始めたころを思い返すことができる、本当にすてきなひとときです。

こんな小さなおいっ子もニコニコして乗っています！　（本人提供）

Let's enjoy Dressage

髙田茉莉亜
Maria Takada

アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆髙田茉莉亜
（たかだ・まりあ）
1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

私たちが旅行をする際に愛用する『スーツケース』。みなさんは馬用の『スーツケース』があるのはご存じですか？

英語では〝saddle trunk〟、日本語では『鞍箱』と呼ばれるもので、欧米を拠点にする馬術選手が大会遠征をする際の必需品です！　鞍箱は、頑丈なアルミや鉄で作られていて、荷物を入れると100㌔以上になりますが、移動しやすいように足元には小さなタイヤが付いています。中は鞍をはじめとするさまざまな馬具を収納しやすいように工夫された構造になっており、大会遠征の際は大量の馬具や荷物をテトリスのようにギューギューに詰めていきます（笑）。無駄なくきれいにパッキングすることで、競技場までの道中でトラックが揺れても大切な鞍や馬具を傷つけず運ぶことができます。

さて、今回はみなさんにご報告があります。4年にわたるドイツ修業を終え、来年から愛馬ブリタニアとともに日本で競技活動を続けていくことになりました。馬術の本場ヨーロッパで習得した技術と経験をいかして、日本で活躍できるよう一生懸命努めます！　引き続き、応援よろしくお願いします。

㊤鞍箱のデザインはさまざま。私はイニシャル入りのものを自分でデザインしました！㊦荷物でいっぱいの鞍箱内の様子です
（写真はともに本人提供）